

## 説教余滴《宿屋の主人・続き》

前主日の「余滴」の続きです。

あのご主人にはいろいろな形容詞がつけられることでしょう。賢い、実直、働き者、優しい、その他、全く反対の評価を考えることもできますが、わたしには無理なようです。

マリアさんとヨセフさんは、数日間、ここに宿り、お世話になったことでしょう。

身重のマリアさんが何日目に出産したか、どこにも書いていません。ルカ2:6に従えば、

「ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉おけに寝かせた。」となります。というわけで、家畜小屋・馬小屋と考えてきました。ここで連想するのは、家畜と人間が同居する文化です。ベツレヘムでは別棟ですが、マリア・ヨセフは、やむなく同居しました。

日本には、同居の文化圏があります。東北地方特有の曲がり屋建築です。

国道47号沿い、鳴子温泉方面へ行くとJR陸羽東線堺田駅から・・・歩くと約500メートルです。尿前（シトマエ）の関からは約10キロだそうです。松尾芭蕉が奥の細道の旅の途中で泊まった所で江戸初期の建物、昭和に解体復元工事が実施されて創建当時の様式で保存、一般公開されています。泊まった家は馬と一緒に生活している所でその時の印象を「蚤虱馬の尿する枕もと」と句で表現しました。有名な句です。なお入場料大人250円です。Webに由りました。

岩手県を中心とした東北地方と茨城県に今も残るのが曲がり家(曲がり屋とも表記される)です。人と馬が一つ屋根の下に暮らす構造になっていて、人が生活する母屋(もや)と馬が生活する馬屋(厩・・・まや・うまや)がLの字状に繋がって一軒の家になっていることから「まがりや」と呼ばれました。